



「次世代アグリ学生プロジェクト」募集要項（2025年度）

1. 概要

次世代アグリイノベーション研究センター（以下、AIC）では、温室効果ガス排出やマイクロプラスチックによる海洋汚染など、グローバルな課題の解決につながるような学生プロジェクトを募集します。グローバルな課題は遠い世界の問題ではなく、私たちの身の周りの出来事とつながっており、私たちの具体的な行動変容は、確実にグローバルな課題の解決に繋がります。学生ならではの斬新な発想から SDGs への貢献を目指す意欲的な提案、待っています！

2. 申請要件

- 1) 代表者は本学の学生であること（代表者が本学学生であれば、他大学学生の参加も可）
- 2) AIC に所属する教員をメンターにすること（複数可。AIC 所属教員は p2 参照）。
なお、AIC 所属教員をメンターに指定する際は、事前相談の上、内諾を得ること。

3. 支援内容

採択された課題には、以下の支援を行います。

- 1) 支援金額：原則、1 件あたり 10 万円を上限とする（ただし、予算の状況により採択額を調整する場合がある）。採択課題は 5 月 1 日以降の活動に予算を使用可。
- 2) 支援期間：1 年（2025 年採択日～2026 年 2 月末）。次年度も募集予定（継続可）。

4. 応募方法：

申請書様式を以下の URL からダウンロードし、必要事項を記入の上、E-mail で提出してください。

○申請書ダウンロード URL・QR コード

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1_LygzxuLW_gJhVritJt-KU0U-KitK0-v/edit?usp=sharing&ouid=106738446514995297701&rtpof=true&sd=true



○ 応募締切： 2025 年 4 月 30 日（水）17 時

- ・送信先 E-mail アドレス：aic@iwate-u.ac.jp
- ・メールの件名は、「【次世代アグリ学生プロジェクト】（代表者の氏名）」としてください。

5. 審査方法：

提出された申請書により審査を行います。必要に応じてヒアリングを行うものとし、ヒアリングを行う場合は、5 月中旬に代表者に連絡します。また、結果は 5 月下旬に代表者へ通知します。

(審査の観点)

- 1) 目的が明確であり、SDGs に合致しているか。
- 2) 計画が具体的であり、実現可能な内容かどうか。

6. 成果発表：

プロジェクト成果を発表する報告会を 2026 年 2～3 月に開催予定。

7. 注意事項

- 1) 取組みの内容によっては、法令に基づく手続きが必要な場合があります(例：動物実験計画の承認)。申請の際は、その観点を含め、申請書の内容をメンターの先生に確認してください。
- 2) 卒業研究や修士研究と関連する内容であっても差し支えありませんが、本プロジェクトの目的である SDGs 達成への貢献という観点から、実社会への還元という観点で、活動成果を取りまとめる必要があります(真理の探究・新たな学術的知見の探索のみを目指す計画の場合は、本プロジェクトの目的に合致しない申請と判断します)。

8. 本件に関する連絡先(問い合わせ・提出)

次世代アグリイノベーション研究センター事務局

TEL 019-621-6851 / Email: aic@iwate-u.ac.jp

AIC 所属教員一覧

下記のメンバーからメンターを指定して下さい。(各教員の専門等詳細は岩手大学 HP 参照)

次世代アグリイノベーションセンター (AIC) (第4期)

岩手大学ビジョン2030に揚げられた「持続可能な社会の実現と予測不能なUCA時代を切り拓く」ため、全学部体制で、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に貢献できる気候変動に適応する持続的な農業技術の開発や、温室効果ガス排出削減や生物多様性の維持を目指した岩手大学独自の技術開発を推進する。そのため① 生物生産部門、② 食と生活部門、③ 生態環境部門の3部門を置き、画像解析や深層学習などを専門とするデータサイエンスグループの参画により先端的な農業DX技術開発を実現する。

▶ 生物生産部門

山田 美和(部門長)
折笠 貴寛
芝崎 祐二(理工)
下野 裕之★



岩手の海や森の豊かな生物資源から**バイオとケミカル**のちからで創出する**新素材**の開発

▶ 食と生活部門

西向 めぐみ(部門長)
伊藤 芳明
袁 春紅
高木 浩一(理工)



高度**エネルギー制御技術**を駆使した、岩手の豊かな生物資源から、**食で健康と幸せ**を創出

▶ 生態環境部門

原科 幸爾(部門長)
出口 善隆
齋藤 仁志
村田 健太郎(理工)



最先端の**センシング技術**を駆使した**人と自然との関係性の再構築**

データサイエンス G

木村 彰男☆(理工)



連携研究機関
・三陸水産研究センター
・岩手生物工学研究センター
・東北農研センター

★センター長・☆副センター長



想定されるプロジェクト案

- 1) 海でマイクロプラスチックになるのを防ぐ：盛岡市街を流れる中津川のプラスチックゴミはいつ、どこから、どういう種類があるのかの動態調査,
- 2) 化学農薬削減で作物（トマトやナスとか？）が育つのか？無農薬栽培，
- 3) 天然物からプラスチックや繊維をつくってみよう！
- 4) 岩手の農産物・海産物を使った生協メニュー開発,
- 5) 魚食消費を拡大しよう～健康栄養簡便化レシピの開発,
- 6) 岩手大学野生動物園（グリーンアドベンチャーの動物版），
- 7) 演習林からでる木質資源を有効活用,
- 8) デジタル/VR 校内植物図鑑・マップの整備,
- 9) 理工スキルの強みを活かした農水食応用アイデアコンテスト,
- 10) バケツ稲で大気中の CO2 をどれだけ取り除けるのかコンテスト， など.

AIC のビジョン

岩手大学ビジョン 2030 に掲げられた「持続可能な社会の実現と予測不能な VUCA 時代を切り拓く」ため、全学部体制で、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献すべく、気候変動に適応する持続的な農業技術の開発や、温室効果ガス排出削減や生物多様性の維持を目指した岩手大学独自の技術開発を推進する。そのため、(1) 生物生産部門、(2) 食と生活部門、(3) 生態環境部門の 3 部門を置き、画像解析や深層学習などを専門とするデータサイエンスグループの参画により先端的な農業 DX 技術開発を実現する